

市民ワークショップ結果報告

福祉部会



第2回ワークショップまとめ

福祉部会 テーマ：高齢者福祉・介護保険制度について

(仮称) 第5次甲府市総合計画第2回市民ワークショップ
平成17年4月24日(日) 午前10:00~/遊亀公民館

まとめ

高齢者の目線でわかりやすく、生きがいをもって暮らせる福祉の総合化と地域に根ざしたネットワークづくり

ネットワークづくり

福祉の総合化 (具体的な提言)

- ・小学校統合の空き地には相談センターや社会福祉協議会、防災の機能も入れて一体となった支援ができるように。
- ・甲府市では今、小学校の統合で空き地ができる。そこに、全ての人が相談できる相談センターを作って、支援サービスを受けられる一体的なものを作ってほしい。

- ・高齢者が多く、降雪時に道路の除雪が困る。

具体化

ネットワークづくり (地域で暮らしたい)

- ・高齢者福祉・障害者福祉と分けなくて困ったとき誰もが相談できるシステムが欲しい。
- ・老人が地域で生きられるシステム作り。一般市民の認識をどのようにすればできるか。
- ・誰もが高齢者になるが、地域の人とどうすれば一体となって考えていけるか。

- ・在宅の一人暮らしの高齢者をフォローできるシステム作り

生きがいづくり

高齢者の生きがいづくり

- ・生きがいのため、働ける場所が欲しい。
- ・企業の定年を高齢にして欲しい。
- ・もっと高齢者が働ける場所づくりをしてほしい。

高齢者のいこいの場づくり

- ・一人暮らしの方への声かけなど。
- ・高齢者のスポーツ施設が欲しい。
- ・高齢者が話し合える場所

今後の介護保険のあり方

今後の介護保険のあり方

- ・介護保険はどう変わるのか。
- ・介護保険制度の見直しがあるようだけれど、どのようになるのか。
- ・介護保険と支援費統合には無理がある。
- ・保険料は払っても負担金が払えなくて使えない。
- ・福祉タクシーを安く利用できるようにしてほしい。
- ・介護保険は家族介助が前提になっている。

老人ホームの充実

- ・老人ホームが近くにほしい。
- ・特別養護老人ホームに入所について(希望に応じて対応)
- ・直営に近い老人ホーム・グループホームが欲しい。

学ぶことが大切

- ・高齢者が知ろうとはしない
- ・知らせる方法(防災無線が聞き取れない)
- ・自分も高齢者だがどんな福祉があるか気にもしていなかった。今は自力で生きていけるからか元気な時からこんな支援があるという事は知らなくてはおもう。

高齢者福祉の課題

- ・プライバシーとの係わり(個人のプライバシーを尊重しながらどのように高齢者を支援していくのか)

- ・子どもたちは大人になると甲府の外に出てしまう。中心地が高齢化している。若い人が住めるように。

ボランティアのあり方

- ・ボランティアはどこまでやるのか。行政は?事業者は?分かりづらい。

高齢者の食事

- ・配食ボランティアについてのあり方
- ・配食サービスの食事が作れない者の把握は?(申告基準)
- ・一人暮らしの高齢者への配食サービスの充実
- ・空き教室を利用して社協ボランティアが食事サービスをできないか。
- ・配食サービスが高額ではないか。

第3回ワークショップまとめ

福祉部会 テーマ：障害者福祉について

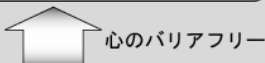
(仮称)第5次甲府市総合計画第3回市民ワークショップ
平成17年5月28日(土)午前10:00~/県民情報プラザ

まとめ

障害者が地域社会の中で役割を担い自立して暮らすことのできる福祉の総合化と地域に根ざしたネットワーク

社会の啓発

- ・障害者は永遠に生まれてくるしどこの家に生まれるか分からない。どの家庭に生まれても困らない社会の認識と組織が必要。
- ・精神障害福祉の場合、プライバシーの問題



バリアフリー

- ・道路などのバリアフリー

精神障害対応

- ・精神障害対応を拡大して欲しい。

自立支援・社会参加

- ・障害者の余暇支援全般に対するサポート
- ・障害者の社会参加の促進が不足している。余暇活動として参加できるスポーツレクリエーション、芸術、ボランティア活動等、気軽に参加できる環境が必要。
- ・障害児の学童期支援(長期休暇や土日放課後支援)を甲府市レベルで制度に位置づけしてほしい。
- ・障害者が就労できる場が甲府市内にほとんどない。例えば特例小会社があればいいが。
- ・授産所について
- ・障害者支援は住み慣れた地域で安心して暮らせるように、日中生活、夜の生活、余暇利用、困ったときの支援体制が必要だ。いろいろ整うといいが、夜の生活も困らないように。

福祉の総合化とシステムづくり

福祉の総合化

- ・高齢者福祉でもあげたように、小学校統合跡地に総合的相談システムと生活支援システムを一体としたもの、災害弱者の防災のシステムも入れて、福祉を総合的に扱う。
- ・障害者対策はめまぐるしく変わる。一般市民・障害者も含めて理解は大変だ。市障害福祉課だけの対応は不十分、3障害合わせた障害者センターを作るべきだ。
- ・障害のある人達の地域生活を支援するには「相談」と「生活支援サービス」を一体的に提供することが必要だ。
- ・ライフステージに応じたサービスを提供するには1ヶ所でサービスを全て組み立てられるところが必要
- ・障害者相談支援事業所、総合相談窓口サービス事業、障害者ケアマネジメント事業などの一体化は必要なのか。
- ・「健やかいきいき甲府プラン」には「地域生活支援センターなどの障害者の生活支援を行う機関」とあけてあるが、地域生活支援センターがないのではないのか。
- ・地域生活支援センターは、一法人施設に属さない公的な機関として活動した方がよい。法人に所属すると法人の収入にとらわれやすい。

相談システム

- ・相談と支援が直結するシステム
- ・甲府には事業者は多いがサービスが支援としてつながっていない。
- ・相談から直接支援までの流れが必要。本人のプランにそった動きが大切

新たな制度について

- ・自立支援法は5年かけて新体系へとのこと。相談システムがしっかりしていないと取り残される人も多くなるのでは？
- ・自立支援法の施行により、基本的な福祉を支える議論はどこへいったのか？
- ・自立支援法は障害者の声を聞いて考えられているのか。
- ・自立できる人はいいが、それ以外のひとはぎりぎりの生活になる。
- ・利用者負担は誰が決めるのか。
- ・新プランで審査判定が公平になされるか。
- ・障害者自立支援法案の内容について(判定など)
- ・判定が出来るのか。一次判定、二次判定、審査判定、どんな立場の人がするのか。
- ・新サービスは、障害者の支援より障害者のランク付けの強調になるのではないのか。
- ・身体障害者福祉、知的障害者福祉、精神保健福祉、と言ってもよくわからない。

地域の連携体制の強化によって
地域の暮らしが成り立つ

地域のマンパワー

- ・民生委員や障害者相談員などの地域のマンパワーが、積極的に障害者支援に対応できるように体制を整備してほしい。
- ・一人暮らしの知的障害者の社会的生活を支える人(民生委員)または機関は？

社協の取り組み強化

- ・平成16年3月に作られた甲府市社協による「甲府市福祉活動計画」の中は老人問題がほとんど。障害者福祉対策についてもっと力を入れるべきだ。
- ・社協の職員が1、2年で担当が変わっていく。もう少し長い期間障害者問題に取り組んでほしい。

市が中心となって

- ・障害児・者支援の仕組みの下地づくりは市町村になった。

市が防波堤に…

第4回ワークショップまとめ

福祉部会 テーマ：児童福祉・母子父子福祉について

(仮称) 第5次甲府市総合計画第4回市民ワークショップ
平成17年7月23日(土) 午前10:00～/県民情報プラザ

